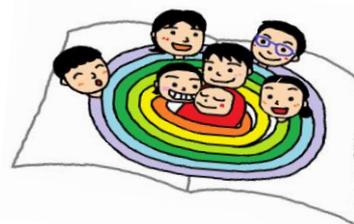


はぐノート便り

第1号 2018. 9. 27



2018年9月18日（火）午後2時～4時  
泉佐野市次世代育成地域交流センターにて

## 泉佐野市サポートブック「はぐノート」

保護者  
支援者向け

# 研修会を開催しました！！

**保護者・支援者合わせて100人を超える参加者がありました！！**

成長していくうえで、発達の細やかな配慮などが必要な子どもたちが、ライフステージで途切れることなく一貫した支援が受けられるよう、保護者も支援者も繋がって切れめない支援をめざします。保護者と支援者が子どもの情報を共有するためのファイルである「はぐノート」ってどんなもの？

できたばかりの「はぐノート」のことをわかって使ってもらいたい。

今回の研修会では「はぐノートってどのように使うの?」「はぐノートの意義」について、大阪大谷大学教育学部教授 小田 浩伸氏を講師にお招きして保護者と支援者が一緒に学びました。

そして、はぐノートのモデルとさせていただいた河内長野市よりサポートブックを活用している保護者のグループ「ピアはーと」の皆さまにも来ていただき、保護者の立場からのお話を聞きました。

ピアはーとの皆さまより  
保護者の生の声



- サポートブックに書く項目は、自分の子どもに合うように書き換えました。
- 同じ項目で書いても、保護者の視点と園の先生の視点では捉え方が違う。なぜ違うのかを話し合うことで、集団の中での子どもの様子を知ることができました。
- 「支援のヒント」のシートは保護者にとっては書くことが難しいと感じるが、療育施設で教えてもらったことを記入して、学校で実践してもらいました。
- 「支援のヒント」のシートにより、療育施設、学校、家庭が同じ支援を続けたことで、子どもの成長を感じました。
- 以前は長所として捉えていた姿が、成長するにつれて課題になっていることに気づけました。

○はじめは子どものマイナス面ばかりを記入していたが、今は、本人が将来サポートブックを見返すことを考えて、プラス面を記入するようにしています。

○関係機関に提出することで、個別の教育支援計画に保護者の思いを反映してもらえています。

○毎年1月か2月に書く、と決めて更新しています。

○保護者の思いをつないでいくツールになっています。

『沢山の方たちに支えられて、大切に育てられた思いを書き記した「サポートブックはーと」は宝物です!』・・・とおっしゃっていました。うれしいとき、つらいとき、毎日の中でたくさんの繋がりを感じてこられた思いが、この言葉になっているのだと思いました。

ピアはーとの皆さま、本当にありがとうございました。



小田先生より

#### **書き方のポイント!** (小田先生の研修会の資料より)

○子どもの強み(ストロングポイント)や成長が具体的に伝わるような成果物の添付、エピソード記述を多用すること。

○個人情報の記載は必要事項のみにする。

○作成の目的は、子どものことをよく理解して適切な支援に繋げるための活用であり、作成そのものが目的ではない。

○様式への記載は、無理に書き埋め尽くすことを考えず、必要に応じて更新していく(書き加えていく)ものとする。

○記載の更新は、基本は年に1回程度であるが、著しい変化・成長が見られたときはその都度更新していく。

○作成はどのライフステージからでも可能である。

○作成の過程は、保護者の理解や子育て力を高める支援にもなっている。

○写真を貼りつけることで、一見して状況や内容が分かるようになる。

#### **グループで話し合い**

「はぐノート」はどのような作成意義やメリットがあり、どのように活用していくものですか？」

と聞かれたときにあなたはどのように説明・紹介しますか？

というテーマで保護者と支援者が混ざってのグループ討議があり、保護者・支援者が

一緒にそれぞれの立場で話し合いました。

## ～シェアリング～

- 保護者は子どものことをわかってほしい気持ちがある。支援者にわかってもらえるツールになる。
- 保護者と支援者の関係作りがしやすい。
- 本人が成長してから見返すことができる。その時に自信になるものを書き綴っていきたい。
- これまでは同じことを何回も言わなければならなかった。はぐノートがあれば伝えやすい。子どもの成育歴そのもの。
- 受け取った側はこれまでの支援を参考に、適した活動を準備できる。  
など、たくさんの声がありました。

## 小田先生のまとめ

- 「はぐノート」は切れめない支援を繋ぐためのもの。支援を受けてきた子どもたちは社会適応できるようになっていく。
- 学校の先生が「はぐノート」をどう活用していくかが鍵。
- 支援は「受けなければならないもの」ではなく「受けることができるもの」支援の必要のない子はいない。

### 最後に・・・～「はぐノート」を通して～

【子どもの共通した願いの実現に向けて】（小田先生の研修会の資料より）

- ほめられたい（認められたい）
- 役にたちたい
- 学びたい（もっと知りたい）
- 自分の意思や気持ちを伝えたい（関わりたい）
- 新しいことに挑戦したい



「はぐノート」を通して「願いの実現」に向けた記録と手だてを記載したもの

情報共有・子どもと保護者の支援ツール

ピアは一とさんのお話は、とても具体的で保護者の気持ちを率直に伝えてくれました。参加した保護者にとって、とても身近に感じたお話だったと思います。そして、小田先生は佐野支援学校の教員をされていたということもあり、より親近感がわき、泉佐野市との繋がりを感しました（勝手に…）

今回、研修会に参加できなかった方や、「はぐノート」って何だろう？と思っている方にとって「はぐノート便り」で少しでも「はぐノート」のことを知ってもらえる機会になればうれしいです。

## 参加者の感想

2018. 9. 18 研修会



一部紹介します～

たくさんの声が聞けました。  
たくさんの声を  
ありがとうございます。

### 保護者

- 「はぐノート」って何？どういうふうにするの？という疑問が解決しました。
- 弱みではなく強みを表現するツール。母子手帳の拡大版という説明が分かりやすかった。
- 子どもの成長記録などピアはーとさんの生の声が聞けてよかった。
- 支援者と保護者において、お互いに安心して情報が共有できる。何度も支援者に説明する必要がなくなり、「まあ、いいか」がなくなると思いました。
- 子どもが地域で安心して生活していくために有効なツールだと思いました。
- 地域で子どもを愛してくれていると感じた。
- 「はぐノート」の書き方は自由でいいんだ！と思った。
- 具体的に書くのに気軽に書ける気持ちになりました。
- 保護者として、冷静に子どものことを考えて書くことで、伝えたいことが明確にできるようになると思った。
- 書き方などもう少しみんなで共有したり、悩みを出し合えるといいなと思う。
- 学校と上手く連携できるか心配。

### 支援者

- 切れ目のない支援・連携していくことが、子ども、保護者の安心感につながることを学びました。
- 子どものその時限りの支援で終わるのではなく、人生の大切な時を共有し、それが続いていくという考えを持つことができました。
- 保護者に渡すだけのものではなくて、成長を共有し、連携していくためのものということがわかりました。
- 保護者の方が、先生が変わるごとに情報を伝える困り感があり、手間がかかっていることや、はぐノートの活用の仕方がわかりました。
- 次の支援担や中学の先生に子どもの強みを引き継ぐ、どのような支援をすることが、その子のために良いのか繋げていく、教育支援計画を書くためのサポートツールとして活用できると思いました。
- 保護者の方と一緒に子どものことを考える時、今までのことを振り返ったり、支援の仕方を考えたりできる。
- 全員の子どもたちに作っていただけたいと思う。基本は保護者が保管なので、共有する場や時間が必要。
- 何度でも研修の機会は必要だと思う。

まだまだ、たくさんの意見がありました。今後の「はぐノート」についての課題も見えました。  
まだまだ…始まったばかりですが、皆さまの意見を参考に「はぐノートっていいね！」「はぐノートがあっ  
てよかったね！」というものにしていくために、今後もできることを考えていきたいと思  
います。